

# 5がわのくもの子の言だより

<4.27. 4.24>

日青れた日にふく風が とても ニちよく感じる季節  
ですわ。木々からは、あおあおとしたみどりにきれいな葉が  
でてのび、葉もきもちよさそうに風にゆれています。

野に山にと、活動の範囲をひろげて あそびあそびたい  
気候で、これまた有効に使いたいのものですわ。くもの子のリズムも

気持ちよく動けますよ~  
大人だけでもいい運動に  
なりますよ~



~ 遊びを豊かに ~

☆ 子どもの活動として一番ふさわしいものは遊びである。

人間の行動は、小さな行動でも、感覚からの情報がいっぱい  
働き、二つ以上のいろいろな子かというふうな見通しや意図を伴い、  
感動や怒りのような感情をも伴う、総合的で全体的な行動です。  
したがって、あそび部分しか働かせないのではなく、考える力も見通す力  
も感じる力も反省する力も全て並行して発達させようとするは、中身の  
部分的な操作ではなくて「あそびをやりたい」、「これはどうなりたい?」  
という動機や感情、それから意欲、意志などが全部整った活動を  
するところが一番ふさわしいということになります。(中略)

子どもにとって大事なことは、一つ一つの操作能力だけを伸ばすとい  
うことではなくて、その「操作」も「行為」も含まれた「活動」全体を  
豊かに体験するのだと考えるのです。そして子どもの動機、感情、  
意志、それから結果に対する評価、それから個々の行為、そして  
その行為を成り立たせている操作、これを全部含んだ子どもの活動  
として一番ふさわしいものは何かというと、それは当然「遊び」

ということになります。子どもの頭の活動をバランスよく  
活性化させ、その発達を促すものとしてやはり遊び  
ということが、一番大事だということもここで改めて  
強調しておきたいと思えます。

たとえば、自然の中に出て、そこで遊ぶということも  
考えてほしい。河原に出て川の中に入ってそこで水に  
触れ魚を採るというようなことをすると、そこには必ず  
さわる、かぐ、指で確かめる、つかむ、さらには土遊び  
を二つというふうなさまざまな操作を行うということが  
含まれます。人間がものを「深くわかる」という場合  
には、何度も強調しますが、こうした五感が  
総動員されて生まれる情報と感情や意志が  
ミックスされなければならぬわけで、自然の中で  
遊びにはそれがいつも保証されています。自然の中  
での遊びは実に総合的です。だから、今日のように  
環境の貧しさが自立してきた時代には、園庭の中で  
ある川上近所の公園や川原などで、子どもたちに自分  
の手足を使っていろいろさわったりかいたりつかったり  
体験をできるだけ豊かにさせてほしいです。



<かきこってなおに乳幼児期の知育を育てる  
よ>